

1 本研究に関わる児童の実態

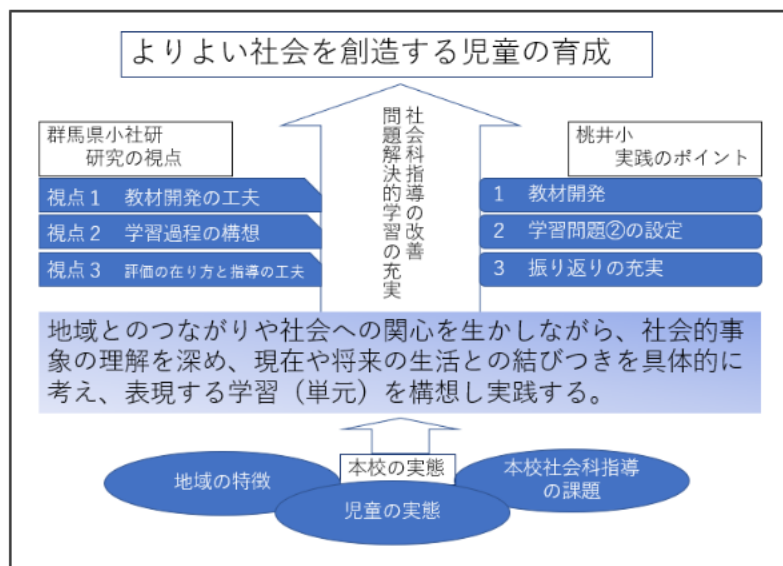
群馬県小社研の研究を受け、本校の研究をスタートするにあたり、本校児童の社会科学習や地域・社会に対する意識調査を行ったところ、以下のような実態が見られた。

- ・自分も地域や社会の役に立ちたいという意欲が高く、自分の住む市や県、国について愛情をもっている児童が多い。
- ・社会科の学習が進むにつれ、社会科の学習が世の中のために役立つことを自覚している児童が増え、6年生では9割ほどになる。
- ・学んだことを基に、できることを考えたいとする児童は多いが、具体的に学びを生かす、将来を考える等のイメージをもてる児童は少ない。

2 社会科の単元における本校の課題

「はばたく群馬の指導プランII」を参考に社会科授業の検討を行ったところ、教師側には次のような課題のあることが分かった。

- ・働かせる「社会的な見方・考え方」の明確化
- ・「見方・考え方」を反映した資料の開発
- ・子どもの「問い」と「予想」から「見通し」をもつ場の設定
- ・問題解決のための必要感のある交流の設定
- ・社会への関わり方を選択・判断し表現する場の設定
- ・主体的に学ぶ、社会的事象を自分事としてとらえるための振り返りの実施



3 本校で目指す実践（研究の目標）

児童の実態及び本校の社会科授業における課題を踏まえて、研究の目標を以下のように設定した。

地域とのつながりや社会への関心を生かしながら、社会的事象の理解を深め、現在や将来の生活との結びつきを具体的に考え、表現する学習（単元）を構想し実践する。

4 校内での取組

本校の課題及び県小社研の研究の視点を受けて、実践のポイントを「教材開発」「学習問題②の設定」「振り返りの充実」の3点とした。

(1)教材開発

児童が社会的事象に対する疑問をもって、調べ、考え、表現して学習を深めるためには、どのような教材と出合わせるかが重要である。そこで、教材を開発する際の観点を以下の3つとした。

①働かせる「見方・考え方」に即した「問い」

社会科の各学年の目標では、資質・能力を育成する過程として「社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して」と示されている。すなわち、単元をデザインする際には、どのような見方・考え方を働かせることが大切かを考える必要がある。その教材から子どもが自然に見方・考え方を働かせ、問いを発することができるよう、教材の開発・吟味、分析を行う。

②生活経験や地域とのかかわり

子どもが直接経験している事象や知っているものを教材として取り上げることで、日常生活と関連付けた学習になり、自ら学ぶ意欲を高めたり体験と結びつけて考えたりすることができる。また、実際に見学したり地域の人材をゲストティーチャーとして教材化したりすることで、より実感を伴って社会的事象を捉えることができると考える。

③今日的な社会の問題や課題

取り上げた社会的事象には今日的な社会の問題や課題が含まれるが、子どもにとってそれは見えにくいことも多い。事象や資料を教材化する際、その問題や課題を捉えやすくすることで、子どもは社会的事象を自分事として捉え、自分なりの価値判断・意思決定ができ、社会参画意識を育てることにつながっていく。

(2)学習問題②の設定

単元で取り上げる社会的事象を、より自分事として捉え、自分と社会とのかかわりを考え、判断し、表現できるように、学習問題①のまとめをした後、「まとめる・いかす」過程において学習問題②を設定する。

学習問題②として設定される内容とそれを扱う学習活動は、以下のように考える。

① 問題の内容

- ・扱った社会的事象にかかわる今日的な課題
- ・扱った社会的事象と自分とのかかわり

学習問題②は、学習問題①との関係を踏まえて設定し、教師側から提示する。

②問題を扱う際の学習活動

一人一人の価値判断・意思決定を促すためには、一人一人が考え、自らの言葉で表現する活動の場が必要である。そのような学習活動として、以下のようなものが考えられる。

- ・討論や話し合い活動
- ・学習問題についてのまとめ（成果物等）への追記
- ・地域や外部の専門家との交流（発信する、話を聞く）

(3)振り返りの充実

学習への主体的な取組みを促し、対象を自分事として捉えたり、社会参画意識を醸成したりできるようにするためにも、自分の学習の過程や成果を自ら振り返る必要がある。

①方法

単元を通して、子どもが見返したり教師が見とりやすくなりできるように振り返りシートを作成する。（右図参照）シートへの記入は毎時間でなく学習過程の区切りで行うこととし、そこまでの学習の仕方や成果、次への見通しを一人一人が振り返ることができるようにする。

②振り返りの観点

学習過程に沿って活動への取り組み状況を問う文言で観点を設定する。問題解決の過程を意識するとともに、そこまでの学習に主体的に取り組んでいたか、取り上げた社会的事象を自分事として捉えられているか振り返ることができるようにする。

5 次年度へ向けての課題

(1)教材開発

- ・ゲストティーチャーとして協力いただける方々と児童との関わり方について、さらに実践を重ねて、より有効な形を明らかにしていきたい。
- ・児童がより見方・考え方を働かせて問いを発するような、教材との出会わせ方をさらに工夫する必要がある。

(2)学習問題②の設定

- ・学習問題①の追究過程で生じる新たな疑問や気づきを反映するなど、問題意識のつながりを踏まえた学習問題②の設定の仕方も検討していきたい。

(3)振り返りの充実

- ・振り返りの内容が学習活動の記録に留まったり、追究の結果やまとめと重なったりする児童もあり、振り返りシートの記入のタイミングや観点をさらに吟味する必要がある。
- ・振り返りシートの記述から見とったよさや課題を次の指導に生かす方法をさらに検討したい。

社会科ふりかえりシート 4年組番

『単元名』 <u>地人からくちを招く。</u>		ふりかえりポイント	GOAL	ふりかえり
つかむ	疑問や知りたいことを考えることができた。	①		ひょうごのくちを招きけんがたれが用
	学習問題について予想を立てることができた。	②		なかりた。
	学習計画をもとにして、解決の見通しがもてた。	③		そうかおたが用意しているのう
追究する	見学や資料などから情報を集めることができた。	④		情報を集めることがた
	集めた情報から、自分の考えをもつことができた。	⑤		おかしからた。資料を読みあはるんわ、ふし自分の考えをもてた
まとめる・いかす	交流して、ちがう見方ができたり、考えが深まったりした。	⑥		自分の考えをもてた。ことができた。
	学習問題に対する自分なりの答えが出せた。	⑦		友達と交流した。自分の見方を自分なりのこたえが出せた。
	自分と社会とのつながりを意識したり、自分のできることを考えたりした。	⑧		自分にできることを考えてポストカードを作った。

社会科学学習指導案

令和6年11月15日（金曜日）

第5校時 3年1組教室

3年1組 指導者 本 彩香

1 単元名 店ではたらく人

2 教材観

本単元は、下記の小学校学習指導要領社会科[第3学年]の内容(2)のア(イ)及び(ウ)並びにイ(イ)を受けて設定されたものである。

- (2) ア (イ) 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解すること。
(ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして白地図などにまとめること。
イ (イ) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。

上記を受け、本単元では、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう工夫して行われていること、そして様々な仕事私たちの生活を支えてくれていることを学習していく。

販売の仕事は、児童の日常生活と密接に関わっている。しかし、多くの児童は、消費者が願いをもって買い物をしていること、また販売者がその願いに応えるために工夫をしていることを知らない。そのため、本単元での学習を通して以下3つの学びを得ることは、よりよい社会の実現に向け、生産や販売の仕事と自分の生活の関わりについて理解を深め、地域社会に対する誇りと愛情を養うことにつながる。

- ・販売の仕事は消費者の需要を踏まえ、売り上げを高めるように工夫や努力していることについて理解すること。
- ・販売する側の仕事の工夫と消費者の願いを関連付けて考えたり、調べたことや考えたことを表現したりすること。
- ・ドラッグストアを例にして販売の仕事と自分の生活との関わりを考えること。

3 研究の視点

(1) 教材開発の工夫	(2) 学習過程の構想	(3) 評価の在り方と指導の工夫
<ul style="list-style-type: none">・地域における販売の工夫について考えられるようにするために、家庭で利用する機会の多い、校区内のドラッグストアを取り上げる。・地域の生産と販売の仕事と自分の生活を結び付けて考えられるように、前単元で扱った漬物工場を再び取り上げる。	<ul style="list-style-type: none">・学習問題①では、販売に関わる人々が多くの消費者に店に来てもらうための工夫や努力について追究する。・学習問題②では、自分の生活と販売や生産の仕事の結びつきを考えられるようにするために、図に整理する活動を行う。	<ul style="list-style-type: none">・学習する社会的事象を自分ごととして捉えて考えることができるように、各学習過程の区切りで振り返りシートを記録する機会を設ける。その際、それまでの学習への取組を自己点検するために、過程ごとに振り返りの観点を明確にし、内容の焦点化を図る。

4 指導計画（単元構想図） 全12時間予定・本時12時間目

単元の様相		単元の系統			
単元の様相 ●【知識及び技能】 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解することができる。【(2)ア(イ)】 消費者の願いや販売の仕方、地域のための取組などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集めたり、まとめたりすることができる。【(2)ア(ウ)】 ●【思考力、判断力、表現力等】 消費者の願い、販売の仕方、地域のための取組などに着目して、販売の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫について考え、表現している。【(2)イ(ア)(イ)】 ●【学びに向かう力、人間性等】 地域に見られる販売の仕事について、予想を立てたり、学習を振り返ったりして、課題を追究し、解決しようとしている。【第3学年の目標(3)】 地域に見られる仕事についてまとめることを通して、自分の生活が様々な生産や販売の仕事に支えられていること、理解を深めることができる。		区分③現代社会の仕組みや働きと人々の生活 … 第3学年 内容(2) 地域に見られる生産や販売の仕事（工場ではたらく人・店ではたらく人）			
本単元に係る児童の実態 ●前単元までの学習で、写真や図から必要なことを読み取ることができるようになってきた児童が多い。【知識及び技能】 ●学んだことや調べたことを基に、自分の考えを書くことができる児童が多い。一方で、仕事をする人と地域の人々の思いを関連付けて考えられる児童はまだ少ない。【思考力・判断力・表現力等】 ●前単元までの学習で、学習計画や問いを確認し、見直しをもって学ぶことの大切さを実感し、身に付けてきている。【主体的に学習に取り組む態度】					
過程	時間	ねらい	主な学習活動	主な支援・指導上の留意点	評価規準 ◇指導に生かす評価 ◆評価に用いる評価
つかむ	1	よく行く店や買い物調べの内容を話し合うことを通して、消費者の店の選び方について疑問をもてるようにする。	○よく買い物に行く店について紹介し、家の人への買い物調べで聞きたいことをまとめる。	○消費者の店の選び方について疑問をもつことができるように、話し合う際に自分や家族がよく買い物に行く店の種類や販売形態、店を選ぶ理由について話し合いの視点を提示する。	◇(態①) ワークシート
	2	買い物調べの結果から気付いたことや疑問に思ったことを話し合うことを通して、単元の学習問題①をつかむことができる。	○買い物調べの結果を整理し、結果から分かることや疑問に感じたことを話し合い、学習問題①を作る。 【学習問題①】ドラッグストアではたらく人は、たくさんのお客さんに来てもらうために、どのようなふうをしているのだろうか。	○買い物調べの結果から、ドラッグストアが地域に多く立地し、買い物客に選ばれていることに気付けるように、地図上に買い物に利用されているドラッグストアやスーパーマーケット、コンビニエンスストアをプロットする活動を設定する。	◇(知・技)② ノート
	3	予想を基に学習計画を立てることを通して、解決への見直しをもてるようにする。	○学習問題①の解決に向けて、予想を基に調べることや調べる方法を考え、学習計画を立てる。	○問題解決に向けて問いを考えることができるように、「ドラッグストアの買い物のしやすさ」や、「選ばれた店にするための働く人の工夫」について、予想する活動を設定する。 ○学習問題①の解決までの活動の見直しをつかむことができるように、今後の学習の流れを図で板書する。	◆(態①) ノート
追究する	4	ドラッグストア見学の事前準備を通して、調査の観点や質問事項を具体化できるようにする。	○ドラッグストアの見学の事前準備をする。	○問いを解決することができるように、売り場や働く人の仕事の様子に着目するよう助言する。 ○見学の具体的な計画を立てられるように、見ることや質問することをしおりに整理する活動を設定する。	◇(思・判・表) ワークシート
	5・6	ドラッグストアの見学を通して、働く人の様子や、売り場の工夫、地域や社会のために取り組んでいることに関する情報を収集できるようにする。	○ドラッグストアの見学をする。 ＜調査の観点＞ ・はたらく人のくふう ・売り場のくふう ・地いきや社会のための取組	○調査の観点に基づいて現地の様子や実物を観察・記録できるように、タブレットで必要な写真を撮るよう助言する。 ○消費者の願いを受け、店側の様々な工夫を捉えることができるように、働く人へ質問する場を設定する。 ○消費者が様々な願いを持って買い物をしていることに気付くことができるように、お客さんに質問する場を設定したり、アンケートボックスを設置したりする。	◇(知・技)② ワークシート
	7	働く人の様子や売り場の工夫について調べた情報を整理することを通して、多様な客が買い物をしやすいように工夫していることを理解できるようにする。	○ドラッグストアで働く人の様子や売り場の工夫について調べて分かったことを話し合う。	○予想をふまえ、自分なりに答えを整理することができるように、ワークシートを準備する。 ○消費者が安心して買い物ができる工夫をドラッグストアがしていることに気付けるように、店側の工夫と客の願いを関連付けて板書に整理する。	◇(知・技)② ワークシート
	8	ドラッグストアが地域や社会のために取り組んでいることを調べて整理することを通して、多様な客が安心して買い物ができるように工夫していることを理解できるようにする。	○ドラッグストアが地域や社会のために取り組んでいることについて調べ、分かったことを話し合う。	○ドラッグストアが地域や社会のために取り組んでいることを調べることができるように、ホームページで調べる活動を設定する。 ○ドラッグストア見学を振り返りながら、地域や社会への取組を想起できるように、見学時の写真を提示する。	◇(知・技)① ノート
まとめる・いかす	9	調べて分かったことを基に、学習問題①の答えについて話し合い、まとめることを通して、ドラッグストアの仕事が消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにする。	○これまでの学習を振り返り、学習問題①の答えをまとめる。	○販売の工夫と消費者の願いを関連付けて考えることができるように、互いの思いを図式化して板書する。 ○学習問題①の答えをまとめることができるように、問いを整理して板書、掲示する。	◇(知・技)① ノート
	10・国語	学習問題①に関して調べて分かったことをミニ新聞にまとめることを通して、これまでの追究を振り返ることができるようにする。	○学習問題①に関して調べて分かったことをミニ新聞にまとめる。	○一人一人が学習を通して学んだことを新聞に表すことができるように、書き方の例を提示する。	◆(思・判・表) ワークシート
	11・家庭学習	他の様々な店の工夫を調べたり、話し合ったりすることを通して、学習問題②をつかむことができるようにする。	○資料や買い物調べから、漬物工場やドラッグストアの他にも地域には販売の仕事があることを確認し、学習問題②をつかむ。 【学習問題②】わたしたちの生活は、地いきの生産やはん売の仕事とどのように関わっているのだろうか。	○身の回りにある店が、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるために様々な工夫をしていることに気付くことができるように、児童に身近な店の写真や資料を提示し、ドラッグストアの工夫との共通点や相違点を話し合う活動を設定する。	◇(知・技)② ノート
12(本時)	学習問題②について自分の考えを伝え合い、まとめることを通して、自分の生活が様々な生産や販売の仕事に支えられていることを理解できるようにする。	○身近な地域に広がる様々な生産や販売の仕事と、自分の生活の結び付きを図に整理し、学習問題②に対する自分の考えをまとめる。	○様々な生産や販売の仕事が自分の生活を支えていることに気づくことができるように、生産と販売の仕事と自分の生活とのつながりを図でまとめる活動を設定する。 ○学習問題②に対して自分の考えを書くことができるように、振り返りの際に、地域の生産や販売の仕事に対して「これまで感じていたこと」と「これから心がけたいこと」の視点を提示する。	◆(態②) ワークシート	
単元の評価規準 ●【知識・技能】 ①消費者の願い、販売の仕方、地域のための取組などを基に、販売の仕事の様子を捉え、販売の仕事が工夫して行われていることを理解している。 ②見学・調査を通して必要な情報を集めたり、調べたことをまとめたりしている。 ●【思考・判断・表現】 消費者の願いや販売の仕方、地域のための取組などについて調べたり、販売の仕事の工夫と消費者の願いを関連付けて考えたりし、調べたことや考えたことを表現している。 ●【主体的に学習に取り組む態度】 ①地域に見られる販売の仕事について、予想を立てたり学習を振り返ったりして、課題を追究し、解決しようとしている。 ②自分の生活が様々な生産や販売の仕事に支えられていることを理解し、学習したことを社会生活に生かそうとしている。					

5 本時の学習

(1) ねらい これまでの学習を基に、自分の生活と地域の生産や販売の仕事との関わりについて、物が自分の手元に届くまでの流れを図にまとめながら考えることを通して、自分の生活が様々な生産や販売の仕事に支えられて成り立っていることを理解する。

(2) 展開

<p>○学習活動 ・予想される児童の反応</p>	時間	<p>支援・指導上の留意点 ☆支援を要する児童への手だて</p>
<p>1. 本時のめあてをつかむ。 ○前時までの学習を振り返る。 ・いろいろな販売や生産の仕事があったな。 ・今日は自分と漬物の関係を勉強した時のように、図にまとめながら学習問題②のまとめをしたいな。</p>	5	<p>○今までの学習の流れを振り返ることができるように、学習計画表を掲示する。 ○本時の学習の見通しを持てるように学習問題②を提示して、前時で行った漬物工場、それを売る店、自分の生活の結び付きをまとめたワークシートを提示する。 ○身近なものに焦点化し、図でまとめられるように、本時で扱う「牛乳」と「おにぎり」を例として提示する。</p>
<p>めあて:わたしたちの生活は、地いきの生産やはん売の仕事とどのように関わっているのだろう。</p>		
<p>2. 一人一人が、生産と販売の仕事と自分の生活の関わりを図にまとめる。 ○今までの学習を想起し、生産・販売と自分の生活の関わりをワークシートにまとめる。 ・この前は漬物に関わる生産と販売の仕事と自分の生活の関わりについてみんなでまとめたな。今日は牛乳について自分でまとめてみよう。 ・牛乳工場やおにぎり工場も漬物工場と同じように、安全に作るためにきつと衛生管理をしっかりしているよ。 ・スーパーやコンビニでも、商品が傷まないように温度を下げていたり、サイズを一人用にしたりして売れるように工夫しているな。</p>	20	<p>○ワークシートにフロー図で整理することができるように、本時までの学習の軌跡を提示したり、自身のワークシートやノートを参考にしたりするよう声掛けをする。 ☆友だちの意見を取り入れながら自分なりの考えを持つことができるように、必要に応じて自由に交流をする時間を設定する。 ○今回扱った仕事（漬物工場・ドラッグストア）以外にも、様々な仕事私たちが生活を支えてくれていることを理解することができるように、身近な牛乳とおにぎりを例に取り上げ、工場から店、自分の手元に届くまでの流れをまとめることができるようにワークシートを提示する。</p>
<p>3. 学級全体で学習問題②に対する結論を話し合う。 ○各々がワークシートにまとめたことを全体で共有する。 ・牛乳もおにぎりも、漬物と同じような流れで私たちとつながっているんだな。 ○学習問題②の結論をまとめる。 ・私たちは、どの生産や販売の仕事がなくなっても困ってしまうな。 ・私たちの生活は、たくさんの生産や販売の仕事に支えられているんだな。ありがたいな。</p>	10	<p>○生産と販売の仕事と自分の生活の関わりについて共有できるように、ワークシートにまとめたことを意図的に指名して発表するよう促す。 ○今回扱った仕事（漬物工場・ドラッグストア）以外にも、様々な仕事私たちが生活を支えてくれていることを理解することができるように、自分の生活と生産や販売の仕事の関わりを想起するよう問いかける。 ○生産と販売のどちらが欠けても、物が自分の手元に届かないことを気付くことができるように、どちらかが欠けたら商品が自分の手元に届くかを発問する。 ○普段購入している多くの物が生産と販売の仕事によって成り立っていることを理解できるように、一家庭あたりの年間購入数量を提示する。</p>
<p>4. 本時のまとめをし、学習を振り返る。 ○全体で本時のまとめをする。 ・私たちの生活は、多くの生産や販売の仕事に支えられているな。 ○単元全体を通して学習したことを振り返り、ワークシートに書く。 ・今までは漬物や牛乳が家にあることは当たり前だと思っていました。でも、生産や販売の仕事があるから、私はそれを食べることができていることが分かりました。これからは、買ってもらったものを大切にしていきたいです。</p>	10	<p>○生産や販売の学習を通して考えたことをふりかえりシートに書くことができるように、「これまで(感じていたこと)」「これから(心がけたいこと)」等の視点を提示する。 ○様々な考え方にふれ、学習内容に対する考えを広げることができるように、ペアや全体で考えを共有する場を設ける。 ○学習への達成感を味わうことができるように、自分と社会との関わりについて考えられたことを称賛する。</p>

社会科学習指導案

令和6年11月15日（金曜日）

第5校時 4年2組教室

4年2組指導者 柳井 邦夫

1 単元名 高い土地に水を引く - 天狗岩用水 -

2 教材観

本単元は、下記の小学校学習指導要領社会科〔第4学年〕の内容（4）のア（イ）及びイの（ア）を受けて設定されたものである。

（4）ア（イ）地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力などにより当時の生活の向上に貢献したことを理解する。

イ（ア）歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。

上記のことを受け、本単元では天狗岩用水について取り上げ、当時の人々の願いや、先人の工夫や努力を理解するとともに、保存や継承の取組を学習していく。日頃当たり前のように享受している便利な生活も、先人たちの苦労や努力によって豊かになってきたことを知らない児童も多い。本単元で学習することを通して以下のような学びを得ることは、先人の働きについて、現在の生活とのつながりを意識しながら、自分たちにできることを考える上で価値がある。

かつての人々の生活の課題や願い、それを解決しようとした先人の苦心と努力について理解すること。

かつての人々の生活の課題や願いと先人の働き、地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて考えたり、調べたことや考えたことを表現したりすること。

天狗岩用水の保存や継承を例にして、地域と自分の生活とのかかわりを考えること。

3 研究の視点

(1) 教材開発の工夫	(2) 学習過程の構想	(3) 評価の在り方と指導の工夫
・副読本「わたしたちの前橋」を活用し、前橋市を流れる天狗岩用水を教材として取り上げる。 ・天狗岩用水に関する展示物のある総社歴史資料館を活用し、またそこで働く説明員の方をゲストティーチャーとして招き、単元を通して関わりをもちながら学習を進めていく。	・天狗岩用水が、当時の人々のどのような願いから、どのようにしてつくられたのかについて調べるための問いを学習問題①とする。 ・学習問題②では、説明員の方の思いに焦点を当て、先人の努力によって地域が発展してきたことを今後も伝えていくためにはどうしたらよいか、自分なりの考えをもち、より広い視野に立って選択・判断できるようにする。	・学習する社会的事象を自分ごととして捉えて考えることができるように、各学習過程の区切りで振り返りシートを記録する機会を設ける。その際、それまでの学習への取組を自己点検するために、過程ごとに振り返りの観点を明確にし、内容の焦点化を図る。

4 指導計画（単元構想図） 全13時間予定・本時10時間目

単元の目標		単元の系統			
<ul style="list-style-type: none"> ●【知識及び技能】 当時の世の中の課題や人々の願いなどについて、見学・調査したり地図やその他の資料で調べたりして年表や文などにまとめ、地域の発展に尽くした先人は様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解する。【(4) ア (イ) (ウ)】 ●【思考力、判断力、表現力等】 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して問いを見いだし、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現する。【(4) イ (イ)】 ●【学びに向かう力、人間性等等】 ①先人の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。【第4学年の目標 (3)】 ②先人の努力によって発展してきた地域に対する誇りや愛情をもち、自分も地域社会の一員として保存・継承のためにできることを考えようとする。【第4学年の目標 (3)】 		大単元 4きょう土の伝統・文化と先人たち 小単元 1残したいもの伝えたいもの ⇒ 2高い土地に水を引く—天狗岩用水—（本単元）			
本単元に係る児童の実態		<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの学習で、年表や地図などの読み取りはできるようになっている。また、今の生活が様々な人に支えられて成り立っていることは理解しているが、地域が発展してきたのは、先人の様々な苦心や努力があったからということまでは、考えが及んでいない。【知識及び技能】 ●学んだことや調べたことを新聞などにまとめたり感想をもったりすることは、ほとんどの児童ができる。一方で、集めた情報に対して自分なりの考えをもち、それを表現することまでできる児童は少ない。【思考力、判断力、表現力等】 ●疑問に思ったことや学習問題を解決するための調べ学習に前向きに取り組み、学習したことを生活に生かしたい、自分も地域の役に立ちたいという意欲をもっている児童は多い。しかし、具体的な考えを言葉にできる児童は多くなく、明確なイメージをもつことのできる児童はごく少数である。【主体的に学習に取り組む態度】 			
過程	時間	ねらい	主な学習活動	主な支援・指導上の留意点	評価規準 ◇指導に生かす評価 ◆評定に用いる評価
つかむ	1	現在の天狗岩用水の写真や地図などの資料を見ることを通して、疑問や知りたいことを考えることができるようにする。	○身近な広瀬川を取り上げ、「用水」について知る。 ○天狗岩用水の資料を見て、気づいたことを話し合う。	○近くに利根川や年王頭川が流れているのに、なぜ用水を引く必要があったのかという疑問がもてるよう、発問を工夫する。 ○単元を通して学習内容の振り返りが効率的にできるように、ワークシートや資料をタブレット上に配信する。	◇(態)① ワークシート・発言
	2	天狗岩用水について、疑問や知りたいこと等を話し合うことを通して、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	○天狗岩用水の秘密を探るための学習問題と学習計画を立てる。 【学習問題①】 秋元長朝は、どのような思いで、どのように天狗岩用水をつくったのだろうか。また、用水ができてどうなったのだろうか。	○児童から出た疑問や知りたいことを整理して板書することで、学習問題をつくれるようにする。 ○学習問題に対する予想を考えながら、見直しをもち、学習計画を立てることができるようにする。	◆(思・判・表)① ワークシート
追究する	3	社会科見学で調べてくることの確認を通して、社会科見学の見直しをもつことができるようにする。	○社会科見学で調べてくるポイントを学習する。 ○学習問題 1 を解決するための3つの問いへの答えの予想を考える。	○追究活動に意欲的に取り組めるように、「天狗岩用水ハンドブック」作りをしていくことを伝える。 ○児童が社会科見学で主体的に課題解決をできるように、課題を確認し、調べてくるポイントを理解させる。	◇(知・技)① しおり記述
	4~6	現地調査の活動を通して、児童が主体的に学習問題の解決に取り組むことができるようにする。	○天狗岩用水、総社歴史資料館を見学する。 ○当時の道具の体験をする。 ○タブレットにメモをしたり、撮影をしたりする。	○見学でタブレットを活用してメモや写真撮影をさせることで、児童が主体的に追究活動を行えるようにする。 ○見学で解決できなかったことや疑問をメモさせておくことで、追究活動につなげる。	◇(知・技)① しおり記述
	7	当時の人々のくらしや願いについて調べる活動を通して、秋元長朝がなんのために天狗岩用水をつくったのかを理解できるようにする。	○秋元長朝が、どうしてこの場所に天狗岩用水をつくったのか、見学で調べてきたことや、教師が提示する資料からまとめる。 ○全体で共有してまとめる。	○見学して分かったこと（利根川と高低差や年王頭川の水量）について話し合うとともに、天狗岩用水ができる前の人々のくらし（日照りや水不足に困っていたことなど）を資料から読み取らせることで、どうしてこの場所に用水を作ったのか、考えられるようにする。 ○児童の興味や疑問に応じて、当時の人々の生活の様子や米作りについて、その解決に向けた資料を準備し提示する。	◇(知・技)① ワークシート・発言
	8	工事の様子や当時の人々の工夫や努力について調べることを通して、だが、どのようにして天狗岩用水をつくったのかを理解できるようにする。	○だが、どのようにして天狗岩用水をつくったのか、見学で調べてきたことや、教師が提示する資料からまとめる。 ○全体で共有してまとめる。	○秋元長朝の功績や人々が行った工事の様子（利根川の支流から水を引いた、農作業の道具が工事に使われた、農民が協力した→工事の間、年貢を取らなかったことなど）について整理して考えられるように、資料提示の順番を工夫する。 ○資料館での道具体験を振り返ることで、当時の人々の苦労や努力について考えられるようにする。	◇(知・技)① ワークシート・発言
	9	天狗岩用水が完成したこと、その後どうなったのかを理解できるようにする。	○天狗岩用水ができて、その後どうなったのか、見学で調べてきたことや、教師が提示する資料からまとめる。 ○全体で共有してまとめる。 ○「ふりかえりシート」で「追究する」過程を振り返る。	○「方田遺愛碑」が天狗岩用水完成から174年後に建てられていることに焦点を当て、天狗岩用水開通後の人々のくらしの変化を具体的に考えられるようにする。 ○用水の完成によって水田が広がったことを関連付けて調べられるように、資料を提示する。	◆(知・技)① ワークシート・発言
まとめる・いかす	10(本時)	学習問題①のまとめを話し合い、説明員さんの話を聞くことを通して、新たな問題をつかみ、これからの天狗岩用水について考えられるようにする。	○各自が考えた学習問題①の答えを全体で共有する。その際、説明員さんに参観してもらおう。 ○説明員さんの話を聞き、天狗岩用水のこれからについて考え、新たな問題をつかむ。 【学習問題②】 秋元長朝や天狗岩用水のことを伝え残していくには、どうしたらよいだろうか。	○児童が学習に対して自信をもったり意欲を高めたりすることができるように、見学の際にお世話になった説明員さんをゲストティーチャーとして招き、共有内容を聞いての感想を言ってもらおう。 ○説明員さんから「秋元長朝まつり」の話題や説明員としての活動を通して感じている課題等を話してもらおうことで、自分たちも地域社会の一員として何かできることはないか考えられるようにする。	◇(知・技)② ◇(思・判・表)② ワークシート・発言
	11	今も行われている伝え残すための活動について調べることを通して、現在まで大切にされてきたことを理解できるようにする。	○天狗岩用水のことを伝え残していくために行われている活動を調べ、現在まで大切に保存・継承されている理由を考える。	○秋元長朝まつり、天狗岩用水の補修工事等が分かる年表、世界かんがい施設遺産への登録などの資料を準備しておき、今も様々な取り組みがあることを理解できるようにする。 ○大切に保存・継承されてきたことの理解を深めるために、説明員さんの活動の意味について考えるよう促す。	◇(態)② ワークシート・発言
	12	学習問題②について自分なりの考えをもち、意見交流することを通して、地域社会の一員として保存・継承のために、自分ができていることを考えられるようにする。	○これからも大切に保存・継承していくためにどうしたらよいか、自分なりの考えをもち、意見交流する。	○自分の考えをもつ時間を十分にとり、全体交流の前に少人数の交流を取り入れることで、自分の考えに自信をもてたり、考えを広げたりできるようにする。 ○意見交流の場では、効率よく個々の意見を共有できるように、ICTを活用する。	◇(態)② ワークシート・発言
	13	手紙を書く活動を通して、今まで学んできたことや自分の考えを表現できるようにする。	○天狗岩用水に関わった人に自分の思いを伝える手紙を書き、単元のまとめをする。 ○「ふりかえりシート」で「まとめる・いかす」過程を振り返る。	○先人の願いや働きを再確認させることで、地域に対する誇りや愛情を高められるようにする。 ○手紙を誰かへて書くか選択させることで、学んだことを生かして自分の考えを表現できるようにする。	◆(思・判・表)② ◆(態)② ワークシート・手紙
単元の評価規準					
<ul style="list-style-type: none"> ●【知識・技能】 ①当時の世の中の課題や人々の願いなどについて、見学・調査したり地図やその他の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、地域の発展に尽くした先人の働きなどの具体的事例を理解している。 ②調べたことをしおりや手紙、文などにまとめ、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。 ●【思考・判断・表現】 ①当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、問いを見いだし、地域の発展に尽くした先人の具体的事例について考え表現している。 ②先人の働きと地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて考え、適切に表現している。 ●【主体的に学習に取り組む態度】 ①先人の働きについて、予想や学習計画を立てたり学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②先人の努力によって発展してきた地域に対する誇りや愛情をもち、自分も地域社会の一員として保存・継承のためにできることを考えようとしている。 					

5 本時の学習

ねらい 『学習問題①』のまとめを話し合い、説明員さんの話を聞くことを通して、これからの天狗岩用水について考えるための新たな問題をつかむことができるようにする。

(1) 展開

学習活動	時間	支援・指導上の留意点
学習活動 ・予想される児童の反応		支援・指導上の留意点 ☆支援を要する児童への手だて
1. 本時のめあてをつかむ ○前時の振り返りをする。 ・3つの問いについて調べてきて、わかったことがいろいろある。 ・今日は、説明員さんに発表を聞いてもらうのが楽しみだ。	5	○児童の言葉で振り返りをし、学習問題の答えを伝える相手を再確認し、本時のめあてにつなげる。
めあて：学習問題①の答えと長朝の思いを考え、説明員の小林さんに伝えよう。		○3つの問いから学習問題①の答えを個、またはグループで考えさせる。
2. 学習問題①の答えと長朝の思いを考える。 問い①秋元長朝はなんのために、天狗岩用水をつくったのか。 問い②だれが、どのようにして、天狗岩用水をつくったのか。 問い③完成後、どのように変わったのか。	15	○他の児童や他のグループと考えを共有させる。 ☆個で考えることが難しい児童には、始めからグループを作り、自分の考えを伝え合ったり、相談したりする場を設ける。
3. 学習問題①の答えと秋元長朝の思いを話し合う。	10	○発表から、当時の人々の願いが、秋元長朝と人々の工夫や努力でかなったこと、その成果が今の自分たちの生活にもつながっていることを確認する。
4. 説明員の方の指導・助言を聞く。 ・秋元祭りは今も地域の人が感謝しているから続いているんだな。 ・天狗岩用水は工事して、使い続けているね。 ・説明員さんのおかげで自分たちも昔の人の苦労がよく分かった。 ・誰かが守ったり、伝えたりしているんだ。	5	○説明員さんに賞賛の言葉や補足、助言等のコメントをいただき、保存と継承についての課題や困っていることを伝えていただく。 ○児童が今回の学習を深める中で、説明員さんの果たしてくれた役割を問いかけ、保存と継承について考えさせる。
		学習問題②：秋元長朝や天狗岩用水のことを、伝え残していくにはどうしたらよいか。
5. 学習問題②について考える。	10	○説明員の方との対話を振り返りながら学習問題②について考えさせる。 ○見学の時に撮った写真から天狗岩用水が修繕されている様子を確認し、昔のままではないことを理解させる。

社会科学学習指導案

令和6年11月15日（金曜日）
第5校時 5年2組教室
5年2組 指導者 高橋 翔真

1 単元名

『工業生産を支える輸送と貿易』

2 教材観

本単元は、下記の小学校学習指導要領社会科〔第5学年〕の内容（3）のア（ウ）（エ）及びイ（ウ）を受けて設定されたものである。

- （3）ア（ウ）貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。
（エ）地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
イ（ウ）交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。

上記のことを受け、本単元では、貿易や運輸が、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解するとともに、日本の工業生産の課題を理解した上で、今後の貿易や運輸の在り方や進展について学習していく。

工業生産において、輸送と貿易の役割は重要な役割を果たしており、児童にとってもトラック輸送などは身近でその働きについても理解している部分が多い。しかし多くの児童は、トラック以外の輸送や輸入・輸出について、漠然としたイメージしかもっておらず、その必要性や重要性についてあまり考えたことがない。そのため、本単元を学習することを通して、児童が以下のような学びを得ることは日本の工業生産について理解するためにも価値がある。

- ・貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。
- ・地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
- ・交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。
- ・社会の今日的な課題として、持続可能な運輸を実現すべくモーダルシフトの在り方について社会の一員として考えること。

このような学びを得る中で、よりよい社会の実現に向け、今後の日本の工業生産の在り方や発展について自分の考えをもち、表現できるようにしたい。

3 研究の視点

(1) 教材開発の工夫	(2) 学習過程の工夫	(3) 評価の在り方と指導の工夫
<p>重点：社会参画意識を育てるための教材の観点と組み合わせの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内におけるトラック輸送の比率の高さとそれによる環境負荷を取り上げ、どのように環境負荷の小さい船舶や鉄道に転換するモーダルシフトを推進するかを今日的な課題の解決に向けた取り組みとして提示することで、課題解決や選択・判断をできるようにする。 ・モーダルシフトに実際に取り組んでいる日本貨物鉄道株式会社職員の方を外部講師として招き、助言をいただく。 	<p>重点：考えを深める第2の問いの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運輸や貿易の様子を調べるための問いを第1の問いとする。 ・第2の問いでは、運輸と貿易を含む工業の課題に対し、それを解決していくために、モーダルシフト推進においてはどのような取組に力を入れていけばよいか、社会の一員として自分なりの考えをもち、より広い視野に立ち「選択・判断」をできるようにする。 	<p>重点：振り返りの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習する社会的事象を自分ごととして捉えて考え、社会と自分とのかかわりを意識できるようにするために、各学習過程の区切りで振り返りができるようカードを用いる。その際、それまでの学習への取り組みを自己点検するための過程ごとの観点を明確にし、振り返りの内容について具体的に問い掛けを行う。

5 本時の学習

- (1) ねらい 私たちの生活をよりよくするために、今後日本がモーダルシフトをどのように推進するべきかどうかを話し合い、力を入れていくべき取組を応援提案としてまとめ、選択・判断する活動を通して、これからの日本の運輸の在り方を考えることができる。

単元の目標					
●【知識及び技能】 交通網の広がり、外国との関わりなどについて、地図帳や各種資料で調べ、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解することができる。【(3)ア(ウ)(エ)、イ(ウ)】 ●【思考力、判断力、表現力等】 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目し、問いを見だし、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現することができる。【(3)イ(ウ)】 ●【学びに向かう力、人間性等】 ①我が国の工業生産における運輸や貿易について、予想や学習計画を立てたり、調べ学習や見学などを通して学習問題を追究したり、学習を振り返ったりして、解決しようとするすることができる。【第6学年の目標(3)】					
単元の系統		大単元 2わたしたちの生活と工業生産 小単元 1くらしを支える工業生産 ⇒ 2自動車をつくる工業 ⇒ 3工業生産を支える輸送と貿易(本単元) ⇒ 4これからの工業生産とわたしたち			
●これまでの学習で資料の読み取りはよくできるようになっている。貿易や輸送に関しては、「自動車をつくる工業」の学習で原材料や工業製品の輸出入について触れており、また関連工場との関係から輸送についても学んでいるので、概要は知っておりイメージももっている。しかし、具体的な貿易の様子や輸送における工夫、課題やそれに対する取り組みについては考えが及んでいない。【知識及び技能】 ●学んだことと調べたことについて感想や自分の考えをもつことは、ほとんどの児童ができる。一方で、学んだことを自分の行動や考えに反映させて、よりよい社会を創ろうとする判断力はまだ浅い。【思考力、判断力、表現力等】 ●導入資料から自分なりの疑問をもったり、主体的に資料を調べ分かったことを自分の言葉でまとめたりできる児童が多い。そこからさらに深めて新たな疑問をもったりできる児童もいる。一方で、まとめたことを自分事として捉えたり、学習方法や過程を工夫・調整したりできる児童は少ない。【主体的に学習に取り組む態度】					
過程	時間	ねらい	主な学習活動	主な支援・指導上の留意点	評価規準
つかむ	1	○日本の輸送や貿易について話し合い、学習問題をづくり、学習計画を立てることができるようにする。	○日本の輸送や貿易について、教科書の写真や各種資料を見て、分かったことや気づいたこと、疑問等を話し合う。	○「輸送」「貿易」について理解できるようにする。 ○各種資料を読み取り、分かったことや気づいたこと、疑問等を伝え合うことで、情報を共有できるようにする。	◇指導に生かす評価 ◆評定に用いる評価 ◇(態)① 記述、発言
【学習問題1】輸送や貿易は、日本の工業生産をどのように支えているのだろうか。					
道徳的 学習	2	○日本の主な輸送網について調べる活動を通して、工業製品は、トラックや鉄道などを使い分けながら輸送されていることを、理解できるようにする。	○「京浜トラックターミナルのまわり」や「日本の主な交通網」の図などから、工業生産における輸送手段を調べ、輸送の役割について話し合う。	○見学に行った SUBARU で運ばれた自動車はその後どこへどのように運ばれていくのか考えさせ、それぞれの輸送の特色とメリット・デメリットをワークシートにまとめられるようにする。 ○国内輸送の大半をトラック輸送が担っていることを捉えられるようにする。 ○「日本の工業生産の広がり」に着目して運輸と工業生産の関わりを考えられるようにする。 ○工業製品が様々な輸送手段を組み合わせる工夫して運ばれていることに気付けるようにする。	◇(知・技)① 記述
	3	○日本の主な輸入相手国や輸入品について調べる活動を通して、日本の輸入の特色について理解できるようにする。	○「主な輸入品の輸入相手国」「輸入と国内生産の割合」の図やグラフなどから、輸入品目や相手国について調べ、日本の輸入の特色を話し合う。	○資料1を読み取る際は、デジタルコンテンツを用いて視覚的に捉えられるようにする。 ○資料3を読み取る際は、特にイメージしにくい「検査場」「化学製品」等について輸入品の具体例を挙げてイメージしながら読み取らせることで、輸入の特色に気付けるようにする。	◇(知・技)① 記述
	4	○日本の主な輸出相手国や輸出品について調べる活動を通して、日本の輸出の特色について理解できるようにする。	○「主な輸出品の輸出相手国」「輸出と国内生産の割合」の図やグラフなどから、輸出品目や相手国について調べ、日本の輸出の特色を話し合う。	○外国との関わりに着目して各種の資料を調べ、日本は工業原料、エネルギー資源、食料等の対外依存度が高く、輸入が滞ることで基幹産業の操業や製品の売上ができなくなることや国民生活を維持するのが難しくなることを自分事として捉えられるようにする。 ○資料2を読み取る際は、輸出品それぞれの具体的な品目について共通理解させ、移り変わりから、現在の我が国の輸入の特色について気付けるようにする。 ○現地生産について、SUBARU の取り組みを想起できるようにする。 ○輸出入の特色を捉えた上で、その課題についても考え、これからの貿易・輸送について個々の考えをもてるようにする。その際、環境問題や戦争が行われていることも資料で提示し、課題意識をもてるようにする。	◇(思・判・表)② 記述、発言
	5	○学習問題に立ち戻り、追究する過程での学習を基に結論をまとめられるようにする。	○単元を通して学んだことを生かす学習問題のまとめを行う。 ○今後の運輸や貿易の課題を捉え、社会的・経済的・環境の面から持続させていくために必要なことを考える。	○学習問題と第2、3、4時それぞれの問いとまとめを確認する。 ○資料1～4が行われているのはなぜか考えさせ、課題をつかめるようにする。 ○重要語句を中心に、まとめる。	◆(思・判・表)② 記述、発言
生活 学習	6	○これからの国内輸送の今日的な課題を把握し、持続可能な運輸の実現に向けて、モーダルシフト推進のための取組を考える新たな学習問題を設定できるようにする。 【学習問題2】私たちの生活をよりよくするために、これからの日本の運輸はモーダルシフトをどのように進めていくべきだろうか。	○現在、国内輸送の大半を担うトラック輸送が環境問題等の課題を抱えていることを把握し、新たな学習問題2をつくり、「これからの日本はモーダルシフト推進のためにどのような取組に力を入れて進めていくべきか」を調べる。	○第2時の既習事項であるトラック輸送、鉄道輸送、海上輸送のメリット・デメリットを振り返って、国内輸送がトラック輸送に依存していることを想起できるようにする。その上で、「モーダルシフト」とは、「トラック輸送から環境負荷の少ない鉄道や船での輸送に切りかえること」であることをおさえ、その必要性を理解できるようにする。 ○外部講師の方（日本貨物鉄道株式会社 高崎職員）を招き、持続可能な運輸を実現する上でモーダルシフトの意味や意義、有用性を説明してもらうとともに、モーダルシフトが進まない理由（ルート・コスト等の問題）や背景について気付けるようにする。 ○モーダルシフトの推進に向けて、グループ内で「国・都道府県」「運輸業者（鉄道・船舶）」「事業者（工場・企業）」の立場に分かれ、新聞・図書やネット等の精選した根拠資料から運輸に関わる人々が取り組んでいる工夫や努力を調べ、その取組がどのような課題解決につながっているか、理由や価値を含めて付箋とワークシートにまとめられるようにする。 ○グループで各自が調べた「国・都道府県」「運輸業者（鉄道・船舶）」「事業者（工場・企業）」の工夫や努力について付箋を使いながら多角的に考察・整理することで、運輸に関わる他の立場の人々の工夫や努力、新たな考えや視点に気付けるようにする。 ○輸送や物流に関わる人々の働きを自分事として捉えられるように、3つの立場の工夫や努力を見据けながら新たな立場「自分たち（消費者）」ができる取組はないかを考える。	◇(思・判・表)② 記述、発言
	7	○運輸に関わる様々な立場の人々がモーダルシフト推進のための工夫や努力をしていることを調べ、これからの力を入れていくべき取組や構想を理解できるようにする。	○運輸に関わる人々として「国・都道府県」「運輸業者（鉄道・船舶）」「事業者（工場・企業）」の3つの立場を提示し、それぞれについてモーダルシフトを推進するために取り組んでいる工夫や努力を調べる。	○「国・都道府県」「運輸業者（鉄道・船舶）」「事業者（工場・企業）」の工夫や努力について付箋を使いながら多角的に考察・整理することで、運輸に関わる他の立場の人々の工夫や努力、新たな考えや視点に気付けるようにする。 ○輸送や物流に関わる人々の働きを自分事として捉えられるように、3つの立場の工夫や努力を見据けながら新たな立場「自分たち（消費者）」ができる取組はないかを考える。	◇(思・判・表)② 記述、発言
	8	○各立場で調べたモーダルシフト推進のための取組や構想をグループに持ち寄り、意見交流することを通して、モーダルシフト推進のための様々な工夫や努力について共通理解を回れるようにする。	○12前後の「国・都道府県」「運輸業者（鉄道・船舶）」「事業者（工場・企業）」の工夫や努力を、思考ツールを用いて重要度の高い取組順に自分なりに考えて序列化し、その理由をまとめる。	○「国・都道府県」「運輸業者（鉄道・船舶）」「事業者（工場・企業）」の工夫や努力を、思考ツールを用いて重要度の高い取組順に自分なりに考えて序列化し、その理由をまとめる。	◇(思・判・表)② 記述、発言
	9 (本時)	○運輸に関わる様々な立場の人々のモーダルシフト推進のための工夫や努力から、私たちの生活をよりよくするために、これからの日本の運輸において力を入れていくべき取組について、自分の考えを選択し・判断できるようにする。	○学習問題2のまとめも兼ねて、思考ツールを活用しながら、日本がモーダルシフトを推進するために、どのような取組に力を入れていくべきかを序列化し、提案としてまとめ発表する。 ○外部講師の方のお話を聞き、振り返り自分の考えを再構築し、思考ツールの再考する。	○前時に個々で考えた順位付けとその理由をグループで互いに説明し合って、力を入れていくべき取組の順序を繰り上げ、モーダルシフト応援提案としてまとめるようにする。 ○学級全体でグループの提案を発表し、比較・関連付けしながら、新たな考えに気付いたり、自分たちの考えを補充・修正したりできるようにする。 ○提案発表を受けて、外部講師の方に評価・価値付けをしていただく。 ○個に戻り、力を入れていくべき取組を一人一人が再決定できるようにする。	◆(思・判・表)② 記述 ◆(態)① 記述、発言
単元の評価規準（知識・技能） ①交通網の広がり、外国との関わりなどについて、貿易や運輸は、地図帳や各種資料で調べ、貿易や運輸の様子を理解している。 ②調べたことを図表や文にまとめ、輸送や貿易が、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解している。 (思考・判断・表現) ①交通網の広がり、外国との関わりなどに着目し、問いを見だし、表現している。 ②工業生産と国民生活を関連付けて考え、学習したことを基に消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの工業の在り方や発展について自分の考えをまとめたり、適切に表現したりしている。 (主体的に学習に取り組む態度) ①我が国の工業における貿易と輸送について、学習問題や予想を立て、調べ学習などを通して学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に消費者や生産者の立場などから、これからの工業の在り方や発展について考えようとしている。					

(2) 展開

学習活動 ・予想される児童の反応	時間 (分)	支援・指導上の留意点 ☆支援を要する児童への手だて
<p>1. 本時のめあてをつかむ。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、めあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の工業を支える輸送でも、環境負荷など考えなくてはいけない新しい問題があり、そのためにモーダルシフトの取組が重要である。 モーダルシフトの取組は、現状あまり進んでおらず、このままでは先行きが見えない。 <p>○どんな課題を改善すべきか、どんな取組に力を入れたらよいか、自分なりの考えを確認できるようにする。</p>	3	<p>○これまでの学習の流れを短時間で想起できるように、大型モニターで振り返るとともに、本時の見通しがもてるようにする。</p> <p>☆前時までの既習事項をいつでも確認できるように、ワークシートなどの資料を手元に置かせておく。また、掲示物も活用できるようにしておく。</p> <p>○運輸に関わる外部講師としてJR貨物高崎職員の方を招き、モーダルシフト推進のための応援提案を伝えることができるように目的意識と相手意識をしっかりとらせる。</p> <p>講師：日本貨物鉄道株式会社 高崎営業所 吉野光一様</p>
<p>めあて：私たちの生活をよりよくするために、モーダルシフト推進に向けて力を入れていくべき取組を提案しよう。</p>		
<p>2. グループでモーダルシフト推進の取組の優先事項を話し合う。</p> <p>○前時に一人一人が行った順位付けを基に、個々の意見をグループで互いに説明し合い、12前後の取組からグループとしての優先順位を決める。</p> <p>【モーダルシフト推進のための取組例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■(国)運輸業者に補助金を出す ■(運輸業者)ターミナル駅や港湾の拡大 ■(事業者)共用ルートの開発 ■(消費者)エコレールマーク商品を選ぶ <p>○上位3つの取組に序列化した理由を中心に、グループとしての応援提案を文章でまとめる。</p>	15	<p>○「モーダルシフト推進のために力を入れていくべき取組」のうち、自分が選んだ優先度の高い取組をグループ内で説明し合えるようにする。その上で、思考ツールを用いて、グループとしての優先順位を様々な立場から多角的に考察し、序列化するように促す。</p> <p>○グループで話し合った上位3つの取組を基に、外部講師の方に、妥当性や実現可能性を踏まえた内容として、応援提案を文章としてまとめるように指示する。</p> <p>☆机間支援をしながら、文章表現に戸惑っている様子が見られるときには、これまでの学習で触れてきた言葉や関係性に着目するよう助言する。その際、既習事項をすぐに想起できるように、板書を整理しておく。また、話し合いの様子をしっかりと見取り、学級全体での意見交流で意図的指名に生かす。</p>
<p>3. 学級全体で「モーダルシフト推進のための応援提案」をよりよいものにするため意見交流する。</p> <p>○いくつかのグループが学級全体で提案を発表し、意見交流することで新たな考えに気付いたり、自分の考えを補完・修正したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> モーダルシフトの推進のためには、輸送ルートを拡大することが求められる。そのためには、運輸業者だけでなく、国や都道府県が積極的に支援して港やターミナル駅の整備や拡大をする必要がある。等 	15	<p>○各グループの思考ツールを黒板に貼り出し、教師は適時適切な発問や支援を入れ、子供の考えや意見を比較・関連付けながら、思考をつなぎ広げ、全体で妥当性や実現可能性のある提案を深められるようにコーディネートする。</p>
<p>4. 日本貨物鉄道株式会社の方に助言・総評をいただく。</p>	3	<p>○事前に打ち合わせをしておき、児童の考えに即した話をしてもらうようにする。</p> <p>○SDGsについて触れてもらい、運輸や工業においても、「社会」「経済」「環境」のバランスがよりよい社会の構築に繋がっていくことを補足してもらう。</p>
<p>5. 本時のまとめをし、振り返りを書く。</p> <p>○一人一人が自分の考えを再構築し、各自の思考ツールの取組順位を再決定する。</p>	9	<p>○全体での意見交流、外部講師の助言・総評を受けて、自分の考えを再構築し、各自の思考ツールを再考しながら振り返りが書けるようにする。</p> <p>○「よりよい社会をつくっていくためには、どうしたらよいか」と問い掛け、自己と向き合い選択・判断することで、社会の一員としての自覚や社会のために役立とうとする社会参画意識を養えるようにする。</p> <p>☆振り返りでは、自分の考えを再構築することが難しそうな児童には、発表を聞いて新たに気付いたことを問い、それを自分の考えに加えてもう一度考え直し、記述できるよう助言する。</p>

社会科学習指導案

令和6年11月15日(金曜日)
第5校時 6年2組教室
6年2組 指導者 高橋 智哉

1 単元名 世界に歩み出した日本

2 教材観

本単元は、下記の小学校学習指導要領社会科〔第6学年〕の内容(2)のア(コ)(シ)及びイ(ア)を受けて設定されたものである。

- | |
|---|
| (2) ア(コ) 大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解すること。
(シ) 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。
イ(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺跡などに注目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。 |
|---|

上記を受け、本単元では、明治中・後期から大正期における歴史的な事象及び人物について学習していく。前単元では明治初期、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを学習してきた。本単元において学習することで、以下のような学びを得ることは、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解する上で価値がある。

- ・日清・日露戦争、不平等条約の改正、科学や産業の発展などの事象、陸奥宗光や東郷平八郎、小村寿太郎、野口英世など活躍した人物について理解すること。
- ・事象を関連付けたり総合したりして、世の中の変化を考え、文章で記述したり説明したりすること。
- ・学習したことをもとに、過去の出来事の世界の中に与えた影響や、現代社会との関連などの視点から、社会の発展について考えること。

3 研究の視点

(1) 教材開発の工夫	(2) 学習過程の構想	(3) 評価の在り方と指導の工夫
・近代化を進めた日本の政策の1つとして本校の所在地でもある前橋市でも製糸業が盛んに行われていたことを取り上げるとともに、上毛かるた「県都前橋生糸の市」の札を取り上げることで、当時我が国の国力の充実につながる産業が、身近な地域にもあったことについて調べ、まとめさせる。	・日本が世界の国々との立場の差を縮めるための取り組みについて、調べるための問いを学習問題①とする。 ・学習問題②では、産業の発展に伴い、人々の生活や社会がどのように変化したかを調べ、当時の人々の多様な立場になって話し合うことで、国際的な地位の向上と社会問題について多面的・多角的に理解させる。	・学習する社会的な事象を自分事として捉えて考え、社会と自分との関わりを意識できるように、各学習過程の区切りで振り返りシートを記録する機会を設ける。その際、それまでの学習への取り組みを自己点検するために、過程ごとに振り返りの視点を明確にし、内容について焦点化を図る。

単元の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ●【知識及び技能】 ①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表などの資料で調べ、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを理解する。【(2)ア(コ)】 ②調べたことを年表や文などにまとめ、日本の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解する。【(2)ア(シ)】 ●【思考力、判断力、表現力等】 ①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問を見出し、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて考え、適切に表現する。【(2)イ(ア)】 ②日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、明治政府の意図や世の中の変化を考え、適切に表現する。【(2)イ(ア)】 ●【学びに向かう力、人間性等】 ①日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。【第6学年の目標(3)】 					
単元の系統		大単元 日本の歴史 小単元 7 江戸幕府と政治の安定 → 8 町人の文化と新しい学問 → 9 明治の国づくりを進めた人々 → 10 世界に歩み出した日本(本単元) → 11 長く続いた戦争と人々の暮らし			
本単元に係る児童の実態		<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの学習で、図表や写真などの資料から必要なことを読み取ることはできるが、時代の流れや歴史上の事象・人物について、その影響や功績を理解している児童は少ない。【知識及び技能】 ●学んだことや調べたことから、自分の考えを書き、伝えることができる児童が多い。一方で、歴史的な事象や人物の功績と今の自分たちや生活とのつながりについて考えることに課題がある。【思考力、判断力、表現力等】 ●疑問に思ったことや学習問題を解決するために進んで調べ学習に取り組める児童が多い。【主体的に学びに取り組む態度】 			
過程	時間	ねらい	主な学習活動	主な支援・指導上の留意点	評価規準 ◇指導に生かす評価 ◆評定に用いる評価
つかむ	1	ノルマントン号事件について調べることを通して、不平等条約の改正を願う人々の思いを考え、表現できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ノルマントン号事件の風刺画を見て話し合い、不平等条約の存在に気付く。 ○調べたことを基に、当時の人々の思いを考える。 ○資料「ビゴ一の風刺画(鹿鳴館)」や井上馨「欧化政策」のを見て、日本と世界の国々との差に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○何がどう不平等だったのか、領事裁判権を認め、関税自主権がないとどうなるのかを、具体的に考えさせる。 ○自分が当時の日本国民だったら、どのようなことを願うかという視点から考えさせる。 ○国力や地位の観点から、日本は世界の国々と比べると大きく劣っていたことに気付かせるために、ビゴ一の風刺画「鹿鳴館」と「井上馨」の資料を提示する。 	◇(知・技)① ノート、発言
	2(本時)	日本と欧米諸国の立場の変化について、資料をもとに話し合い、学習問題をつくることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ノルマントン号事件の風刺画を見て話し合い、不平等条約の存在について振り返る。 ○資料から日本と欧米諸国の立場の差に気付く。 ○ノルマントン号事件の風刺画、西洋クラブへの仲間入りの風刺画、国際連盟の新渡戸稲造の資料から世界における日本の立場の変化に気付く。 ○不平等条約の締結から資料「国際連盟の新渡戸稲造」の時期までの事象を年表で調べ、気付いたことや疑問を共有する。 ○疑問に思ったことや調べてみたいことを考え、学習問題を設定する。 <p>【学習問題①】日本は、世界の国々との立場の差をどのように縮めていったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題①に対して予想を出し合い、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○江戸時代末期に結んだ不平等条約の問題点や条約改正を求めたことについて振り返ることができるように、ノルマントン号事件の風刺画を提示する。 ○劣っていた日本の立場が最終的に欧米諸国と対等になったことに気付かせるため、3つの資料を並べて提示する。 ○資料からわかったことや疑問に思ったことを出し合い、整理することで、学習問題①をつくれるようにする。 ○学習問題①に対する予想を考えることで、今後の学習に対する意欲や見通しをもち、学習計画を立てることができるようにする。 	◇(思・判・表)① ノート ◆(態)① ノート、発言
追究する	3	資料や年表から必要な情報を集め、読み取ることを通して、明治政府の殖産興業政策による国づくりと陸奥宗光らによる条約改正交渉の進展とを結びつけて理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○新橋工場と製糸工場の写真、工業の発展についてのグラフから気付いたことを話し合う。 ○条約改正に向けた陸奥宗光の働きと、その頃の日本を取り巻く状況などを年表やグラフなどを関連付けて読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○明治期の工業の発展について考えさせるために、工場の数と働く人の関係とを表したグラフや主要な貿易品目の推移のグラフを読み取らせる。 ○上毛かるた「県都前橋生糸の市(まち)」の札を取り上げ、前橋市の製糸業もまた、国力を高めるための重要な産業であったことを気付かせる。 	◇(思・判・表)① ノート ◆(知・技)① ワークシート
	4	絵図やグラフなどから必要な情報を集め、読み取ることを通して、日清・日露戦争の様子や、日本が世界に与えた影響について理解できるようにする。※東郷平八郎	<ul style="list-style-type: none"> ○「朝鮮をめぐる、日本、ロシア、中国」の風刺画を見て、どんな様子を表しているかを考え、朝鮮をめぐる三国の関係について話し合う。 ○資料から二つの戦争の様子や結果を読み取り、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2つの戦争の原因は関連が深いことに気付かせるために、風刺画と地図から考えさせる。 ○日本の勝利は、欧米諸国に日本の国力の向上を認めさせるとともに、朝鮮半島を支配下におくことを認めさせたことに気付かせる。 ○戦争に勝利によって日本の国力が欧米諸国に認められて地位が向上したというよい側面だけでなく、大きな損害を受けるなど悪い側面にも目が向くようにする。 	◇(知・技)①② ノート、発言
	5	必要な情報を集め、読み取ることを通して医学や文学の分野等で活躍した人物の働きについて理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○戦争の勝利の背景には、小村寿太郎が条約改正に成功し、関税自主権を回復したことがあることを確認し、その意義を考える。 ○科学や文化の面でも、世界で活躍する日本人が出てきたことを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年表から日本の国力が充実してきたこと、その背景にある小村寿太郎の活躍に気付かせる。 ○医学や文学などの分野で、成果が世界に認められた資料を見ることで、国力の充実や国際的地位の向上が達成されたことを気付かせる。 	◇(知・技)① ノート、発言
まとめる・いかに	7	学習問題①の答えを全体で話し合わせ、まとめることができるようにする。さらに当時の社会の動きについて多角的に考えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○日本が世界の国々との立場の差をどのように縮めていったかについてわかったことを話し合い、学習問題①の答えを確かめる。 ○当時の社会問題について、さらに深く知るための学習問題②を設定する。 <p>【学習問題②】産業の発展と国民生活のどちらを優先すべきだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本単元で調べたこと、考えたことを総合させ、ノートにまとめさせることで学習問題①の答えを導かせる。 ○ペア学習で各自の考えを交流させることで、考えを深めさせる。 ○当時の社会問題について知るために、学習問題②を提示する。 	◇(思・判・表)② ノート
	8	学習問題②について、自分の立場を明らかにして話し合うことを通して、当時の社会の動きについて多角的に考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の立場を明らかにして話し合い、産業の発展と国民生活のどちらを優先すべきか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の立場を明らかにして話し合わせる活動を通して、自己決定や判断をする機会を作り、更に理解を深めると共に、友達の考えを聞くことで、多角的な見方・考え方ができるようにする。 	◆(思・判・表)② ワークシート ◆(態)① ノート記述、発言

単元の評価規準

〔知識・技能〕

- ①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表などの資料で調べ、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを理解している。
- ②調べたことを年表や文などにまとめ、日本の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。

〔思考・判断・表現力等〕

- ①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて考え表現している。
- ②日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、明治政府の意図や世の中の様子の変化を考え、適切に表現している。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

- ①日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

4 指導計画（単元構想図） 全8時間予定・本時2時間目

5 本時の学習

(1) ねらい 明治維新後の日本の世界における立場の変化について、資料を基に話し合い、学習問題をつくることができるようにする。

(2) 展開

○学習活動 ・予想される児童の反応	時間	支援・指導上の留意点 ☆支援を要する児童への手だて
1. 前時までの学習内容を振り返り、本時のめあてを設定する。	5	○前時で学習したことを想起させるために、ノルマントン号事件の風刺画を黒板に提示し、事件の概要を再確認させる。 ○不平等条約に対する当時の人々の思いや願いを想像したことについて、自由に発表させることから、本時のねらいである学習問題設定への意識を高めていく。
めあて：日本と世界の国々の立場の変化について資料を基に考え、学習問題をつくろう。		
2. 資料「日本の西洋クラブへの仲間入り」や「国際連盟の事務局次長の新渡戸稲造」から、世界から見た日本の立場とその変化を読み取る。 ・服装がアンバランスだから、西洋は日本がまだ西洋に追い付いていないと見ているのだろう。 ・表情から、西洋は日本を下に見ているはずだ。 ・事務局次長という立場は偉そうだ。日本人が活躍している。 ・座る位置が真ん中だから、日本の立場が西洋の国々に並んだ。	10	○富国強兵政策を推進したが世界の国から下に見られていたことや劣っていた日本の立場が変化することに気付かせる。 ○当時の日本の世界における立場を考えさせるために、児童の発表が資料の描写のみにとどまる場合は、西洋が日本をどのように見ていたかと問い返す。 ○新渡戸の地位を理解できるように、国際連盟について補足説明をする。 ○資料はノルマントン号事件から34年も後のものであることを知らせ、この間、日本が様々な努力をしてきたであろうということを意識付ける。
3. 不平等条約の締結から国際連盟発足時期までの略年表から気付いたことや疑問について話し合う。 ・八幡製鉄所ができた。工業が盛んになった。 ・日清戦争や日露戦争が起こっている。外国より強くなれば世界が認めてくれる。 ・北里柴三郎や野口英世が病気の治療法を発見した。日本人が医学分野でも世界で活躍している。 ・生活も豊かになったのかな。国民の生活は変わったのかな。	10	○気付いたことをノートに書かせる際、疑問に思ったことがあれば併せて記入するよう伝え、問題解決への意欲を高める。 ○様々な視点から国力の向上を意識できるように、産業・軍事・生活・文化・政治の内容を記した自作の年表を配布し、モニターにも映す。 ○全体共有では、多様な考えを出させるために、多くの児童を指名するとともに、個の解決やペア学習の見取りから、必要に応じた意図的指名をする。 ○見付けた事象がなぜ立場の変化につながると考えたのか問いかけ、考えとその理由を明確にさせる。
4. 学習問題を設定する。 ・条約が改正されたことから、世界との差が確実に縮まったということが言えそうだ。 ・どのような人物のどのような活躍があったのか詳しく知りたい。	5	○これまで共有したことから、全体を通して言えること、詳しく調べてみたいと思ったことは何かを問いかけ、自由に発言させ、児童の発言やつぶやきのキーワードを整理して板書することで、単元の学習問題設定につなげていく。
【学習問題】日本は、世界の国々との立場の差をどのように縮めていったのだろう。		
5. 学習問題について予想し、学習計画を立てる。 ・殖産興業政策による産業の発展について調べる。 ・2つの戦争の結果、日本の立場がどう変化したのかを調べる。 ・世界で活躍した日本人の分野や功績について調べる。 ・国民の生活はどう変わったのかを調べる。	10	○予想を全体で共有し、調べたいことを話し合うことで、学習計画づくりにつなげていく。 ○児童から出された意見を類型化して板書することで、本単元で調べることを明確にさせ、学習計画に位置付けていく。 ○みんなで作った学習計画に基づいて学習していくことが学習問題の解決につながることを全体で確認させ、本単元の学習全体への見通しをもたせる。
6. 本時の振り返りをする。 ・たくさん意見を出すことができた。当時の日本と世界の国際的な差に驚いた。どのように日本が世界との差を縮めていったのかを詳しく調べていきたい。	5	○本時の学習を通して考えたことを振り返りシートに書くことができるように、「今日の気付きや分かったこと」や「次の時間から特に調べたいこと」など視点を提示する。 ○様々な考え方にふれ、学習内容に対する考えを広げることができるように、ペアや全体で考えを共有する場を設ける。